

## 平成29年度 葉山町環境審議会議事録

日時：平成29年7月25日（火）10時00分～12時00分

場所：葉山町役場庁舎3階 議会協議会室1

出席者

（会長）原科 幸彦

（副会長）加藤 清

（委員）錦澤 滋雄、人見 孝、三井 修、相馬 立夫、石井 春夫

※矢嶋 壮二委員は欠席

（事務局）伊藤 義紀、坂本 泰一、雨宮 健治、小野 卓矢

審議事項

- （1） 会長及び副会長の選任と審議会の傍聴について
- （2） 葉山の環境について
- （3） その他（今後の審議会について）

坂本環境課長

予定時刻になりましたのでこれより平成29年度第1回環境審議会を開催させていただきます。矢島委員はご欠席の連絡が入っています。この度は環境審議会委員をこころよくお引き受けいただき誠にありがとうございます。また、本日はご多忙のところご出席ありがとうございます。早速ですが山梨町長より委嘱状を各委員様にお渡しいただきます。

《山梨町長から各委員へ委嘱状の交付》

坂本環境課長

山梨町長からご挨拶をお願いします。

山梨町長

よろしくをお願いします。ご存知のことかとは思いますが、葉山町は全体の17km<sup>2</sup>のうち70%が市街化調整区域になります。緑被率で見れば74%を超え、市街化地域に関しても緑を好む方々がいらっしゃいます。この町は西向きの4kmの海岸線を有しております。相模湾を望むと海を見ながら霊峰の富士山・丹沢が見えるということで、人間が環境を感じる空間として都心から1時間で来られる場所としてはまさに素晴らしく、そのため、この町に123年前、御用邸の設置が決められ、先人達が長らくこの町の環境を愛し、守ってきた歴史的経緯があります。町の環境を守り受け継ぐことが、この町の財産であり、大事なことというのは全力で声を上げ行動していきたいと思っています。しかし一方で、それぞれの事情もあり、環境に対しての向き合い方もそれぞれの考え方もあります。町のレベル

としてどのように環境に向き合っていくのか、個人レベルではなく、町としてのこれからの葉山の環境への指針を示していただきたく審議会委員を委嘱させていただきました。ぜひ皆様の力を一つにして、歴史ある葉山の環境の方向性を、私どもにおあずけいただきたいと思ひます。

坂本環境課長

町長は公務重複のためここで退席させていただきます。本日の出席委員は、委員 8 名のうち 7 名ということで、出席委員数は過半数に達しているため環境審議会規則第 5 条第 2 項の規程により、会議は成立となります。審議会第 1 回目ですので各委員の方々に自己紹介をお願いします。

原科委員

おはようございます。長いお付き合いになります。3 月から千葉商科大学の学長を務めています。千葉商科大学に来る前は東京工業大学で社会工学の立場から環境の研究をしてきました。前町長からのお付き合いで、その頃から「簡単なアセスメントを導入すると風通しがよくなります」、という話をしていました。山梨町長はそのことをよく理解し、その方向が良いのではないかというお考えになってきたようなので、コミュニケーションの手段としての良い仕組みをこの町に導入してもらいたいと思ひます。

錦澤委員

私は東京工業大学で環境社会理工学部にも所属しており、主に環境政策とか環境計画と言われる分野を専門にしています。環境アセスメントですとか、再生可能エネルギーなどを、住民がどういう風にそれを地域で受けとめるかという社会的受容性の問題を研究しています。鎌倉で生まれ育ちましたので、葉山に来る機会はよくありました。葉山は、環境が大変素晴らしいところだと思ひています。この様に環境が素晴らしいところで、環境をどう風にして保全してまちづくりを行っていくか、非常に大事な審議会だと思ひます。よろしくをお願いします。

人見委員

神奈川県で 20 年以上、大気水質・廃棄物等の仕事をしてきました。よろしくをお願いします。

三井委員

地元で二子山山系自然保護協議会や寺前谷戸復元プロジェクトなど、自然環境に関する活動をしている関係で参加させていただきました。よろしくをお願いします。

相馬委員

葉山町で建築設計事務所を営んでいます。NPO法人葉山環境文化デザイン集団にも参加し、街歩きをしたり、別荘・古民家保存等に関わったり、公民館や庭園を保存していく神奈川県へのヘリテージマネージャーの取り組みにも講座を受けて参加しています。縁があり審議会に参加させていただきました。よろしくお願いします。

加藤委員

60数年葉山に住み、葉山の環境を知る観点から色々なこととお話できればと思っています。よろしくお願いします。

石井委員

よこすか葉山農業協同組合葉山野菜の会の石井です。葉山野菜の会は畑を4枚借りて、野菜作りをしています。約30名の会員で運営・構成されています。現在多くの会員が葉山ステーションに出荷しています。よろしくお願いします。

坂本環境課長

ありがとうございます。事務局の職員から自己紹介をさせていただきます。

伊藤環境部長

今回環境審議会にご参加いただきありがとうございます。葉山町は平成27年の4月から町の最上位計画であります第4次葉山町総合計画を策定しました。私は当時、企画調整課でこの作りこみに携わりました。その際、葉山の一般の方々や中学生に対しアンケート調査を行いました。葉山の好きな所はどのような所か、という質問に対し、9割以上の方に「自然環境が好きだ。」「住んでいて気持ちが良い所がたくさんある。」というご回答をいただきました。町として、先人の方々が築きあげた風光明媚な葉山の環境を守り、将来に継承していくのが我々に課せられた責務と考えています。これからの葉山の環境をどの様に守り、より良くしていくにはどういうことが必要なのか、この審議会では委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いします。

坂本環境課長

よろしくお願いします。

雨宮環境課長補佐

よろしくお願いします。

小野主任

よろしく申し上げます。

坂本環境課長

次に、会長及び副会長の互選です。葉山町環境審議会規則第4条第1項に、審議会に会長及び副会長各1名を置くこと、同条第2項に会長及び副会長は委員の互選により定めるとされています。皆さんいかがでしょうか。

加藤委員

事務局としての案はありますか。

坂本環境課長

事務局としては長く環境審議会委員をお引き受けいただいております、前回まで会長を務めていただいている原科委員に会長を、副会長についても前回から務めていただいている加藤委員にお願いしたいと考えていますが、皆さんいかがでしょうか。

各委員

異論なし。(事務局案を承認)

坂本環境課長

ありがとうございます。それでは、会長を原科委員、副会長を加藤委員に決定させていただきます。もう一点事務局からお諮りしたいことがございます。当審議会の公開・非公開についてです。こちらは審議会の長が当該審議会に諮って決めることとなっています。早速で恐縮ですが、原科会長から委員の皆様へ公開・非公開について諮っていただくようお願いいたします。

原科会長

傍聴希望の方はいらっしゃいますか。

坂本環境課長

本日2名の方が希望しています。

原科会長

審議事項を見ると、一般的な議論かと思えます。特に秘匿すべき事項がないと思えますがいかがでしょうか。公開でよろしいですか。

各委員  
異論なし。

原科会長  
では公開をお願いします。

坂本環境課長  
ありがとうございます。次に議事録についてお諮りしたいと思います。  
議事録につきましては審議会終了後に事務局で作成しますが、作成した議事録を公開して  
よろしいでしょうか。

原科会長  
公開でよろしいでしょうか。

各委員  
異論なし。

原科会長  
異論なしということです。

坂本環境課長  
ありがとうございます。議事録につきましては作成後、委員の皆様にご確認していただい  
た後に葉山町ホームページ上で公開させていただきます。

**(傍聴者入室)**

それでは、以降は会長の方で、議事の進行をお願いします。

原科会長  
環境の問題についてよく言われるのが、日本人は環境への意識が高いが、それが何か具体  
的な行動に結びついているとは言い難いということです。欧米と比較しても環境への意識  
は高いが、アクションに結びつかない。色々考えると、環境の問題が身近になっていない  
のだと思います。日常の環境情報が人々に伝わっていないという印象を持ちます。  
私はインパクトアセスメント（※発言後に注釈）の研究をしてきました。日本のインパ  
クトアセスメントの状況は欧米・中国とは全く異なります。日本の国と地方のアセスメント  
の件数は60件から100件程度に対し、中国は年間45万件、アメリカは多い時では年  
間10万件近く行われています。この違いを考えなければいけません。数が多いというこ  
とは、時間も費用もかからないコンパクトな仕組みということです。私は以前からこの審

議会でお話しているが、もっと身近でコンパクトなコミュニケーションの仕組みができれば、具体的な行動にもつながりやすくなると考えています。葉山町は環境への意識が高い方が多く住む町なので、そのような仕組みが出来ることを期待しています。以上です。

(※インパクトアセスメント：影響評価。ある行為が将来引き起こすであろう結果や周囲に対する影響を予測する作業・プロセス)

伊藤環境部長

今回初めて委員をお務めいただく方もいらっしゃいます。原科会長のお話にありましたが、お手元の環境基本計画（改訂版）の冊子61ページに、環境アセスメントという項目があります。これは環境影響評価ということで、環境に何らかの影響を及ぼすものについて事前に予測・評価をして対策を予め講じるための社会的手続きであり、情報公開を基礎に環境配慮するための手段です。私たちのほうで補足させていただきますと、第4次葉山町総合計画にあるように、今後の地方自治においては町民の方々との協働が欠かせません。様々な協働の中でも、環境のためには教育が大きなウエイトを占めると考えております。葉山の中学生に対するアンケートでは、葉山の自然が好きと答えた中学生がたくさんいました。葉山の環境を将来に亘り守り続ける為にも、小さい頃からの環境教育が非常に大事になるので、その方面からも皆様にはご意見をいただきたいと思っております。以上です。

原科会長

ありがとうございます。環境アセスメントというと面倒なものというイメージが日本では強いと思います。それをなんとか、もう少し建設的なイメージに変えてもらえればと思っています。では、本日の議題「葉山の環境について」です。これは事務局からまずご説明をお願いします。雨宮環境課長補佐、お願いします。

雨宮環境課長補佐

よろしく申し上げます。お手元の資料「はやまの環境」に沿って、簡単に説明させていただきます。

(資料:はやまの環境)をもとに状況報告

※(資料:はやまの環境)は葉山町HPトップページ【ご案内】⇒【葉山の環境】⇒【葉山町の環境状況報告】に掲載

原科会長

これにつきましてご質問ありましたらお願いします。

《以下報告に対する質問と応答》

原科会長

- ・合併処理浄化槽の補助金の最新状況について

➤市街化調整区域の単独処理浄化槽及び汲み取り便槽を合併処理浄化槽への転換を推進し、更なる水環境の向上のため、平成 29 年度から転換補助金及び維持管理費補助金を拡大し、町民の自己負担額を軽減することとした。

加藤副会長

- ・ごみ排出量について（目標にしている数値にどれだけ近づいているか）

➤葉山町ごみ処理基本計画の目標は、10 年後に資源化率を 50%以上に、焼却率を 50%以下にすること。現状の資源化率は 43.8%。手法等の検討・整理をして目標に近づきたい。

錦澤委員

- ・資源化率について（平成 26 年頃からの状況はどうか）

➤平成 26 年 6 月からの戸別収集等の取組みにより分別の精度が向上したため、従来ごみとしてまとめて捨てられていたものの中から、資源化するものがより正確に分別されるようになり、その結果資源化率が向上した。

相馬委員

- ・民間の最終処分場について

➤群馬県草津町にある民間最終処分場で焼却灰と不燃物の一部を埋め立て処理している。

三井委員

- ・可燃ごみの焼却について

➤民間の焼却施設を 3 ヶ所利用している。（富士宮市・成田市・市原市）

今年度から逗子市との共同処理を始め、段階的に逗子市焼却炉での可燃ごみ処理へ移す取り組みをしている。

加藤副会長

- ・農作物の耕地面積は、なぜ増えているか

➤明確な理由は不明だが、企業に就職し、仕事を退職した方が農業を行うようになったのではないかと分析している。

原科会長

そうすると、廃棄物関連への対策はかなり進展していて、排水に関する対策もこの調子

でお願いしたいですね。ただ、自然を守ることや、緑地を保存すること、景観等の問題は  
どう考えているのでしょうか。

雨宮環境課長補佐

葉山町は緑被率が70%以上あり、近郊緑地保全区域が市街地まであり、風致地区が大規模に指定されています。そして、住宅の宅地内にも緑が多く植栽されており、建物と建物の間の隙間が広く、都市景観としては余裕がある町と考えています。自然環境がいいというイメージを含めて、それらを今後どう守っていくのかを考えていく必要があると思います。

原科会長

基本的な所は良いが、個別の開発行為が関わってくると、難しいことが出てくるのでは。その時に「こういう状況ですよ」と周囲に知らせるようなコミュニケーションができればトラブルも防げるのではないのでしょうか。

伊藤環境部長

開発を行うにあたっては、葉山町は高度地区が全域にかかっており、風致地区・近郊緑地保全区域も多く規制的にはきつい状況があります。一方で、人口減少が全国の自治体で問題になっている中で、葉山町としては10年間の総合計画の中で今と同じ人口を維持していくという希望を持っています。規制を今より強化すると人口流入の妨げになる可能性もあり、教育・福祉等の財源不足につながる可能性もあります。景観に配慮しつつ、地域ごとの特色を活かした葉山らしい開発をすることで納得性の高い開発ができるのではないのでしょうか。

原科会長

それには地域のコンセプト、シェアできる価値、コミュニケーションが大事だと思います。その他いかがでしょうか。

三井委員

緑地が多く、緑地が好きという中学生の意見がある一方で、環境整備・保全の担い手が少ないと感じています。

伊藤環境部長

環境への意識はあるけれどなかなか行動が伴わないという現状ですが、例えば、山の中がどうなっているのか、山の状態が河川や海岸にどういった影響を与えているのかなど葉山町の環境の現状を知っていただいた上で、環境活動に参加しやすい仕組み作りが必要にな



と考えています。町として住民の方々の協力もいただきながら、今の小中学生が将来に亘り、自然環境を守り続ける重要性を認識するような意識付けの取り組みをしていきたいと考えています。そして山の中に人が入り、手をかけていくための仕掛け作りを少しずつ始めていく必要があります。また、各団体を結び付けるコーディネーターは行政でないといけないので、環境が人々の生活に与える影響を、情報として発信していくことが必要です。何か良い方法などがあれば、教えていただけるとそれを参考に検討していきたいと思います。

原科会長

時間もそろそろ終わりに近づいています。今年度のスケジュールはあと、10月と12月と来年の3月の3回です。10月に行われる第2回は環境配慮・行動指針についての意見交換ができればと思います。具体的にどんなことをしていけばいいのか、環境への気付きの機会をどうやって作るのかお考えいただきたいと思います。

伊藤環境部長

皆さんにお配りしている資料、葉山町環境基本計画（改訂版）の37ページ、第4章に環境配慮・行動指針が書かれています。審議会として、こういう行動をすればよりこちらに掲げている基本目標に近づけるのではないかということについてご審議いただければと思います。

原科会長

開発行為を行う際、事前に様々なやり取りがあり環境に配慮しているようですが周囲に上手く伝わっていないようです。周囲とのコミュニケーションがもっと簡単な手続きでできれば状況も変わってくると思います。そうすると日常的に環境に関する物事を考え出すと思います。

伊藤環境部長

錦澤委員が指導されている、環境に対する勉強がしたいという学生さんは、何がきっかけで勉強したいと思ったのか。そういったきっかけをヒントにして葉山町の環境に対する取り組みのスタートになればと思っていますがいかがですか。

錦澤委員

生ごみの堆肥化や家の中でやるような、日常生活の中での取り組みは子どもにとっては環境について考えるきっかけになるのではないのでしょうか。分別や戸別収集などの仕組みを作ると、各家庭で配慮して分別をきちんとやらなくてはいけないし、子どもとのコミュニケーションも生まれますので、そうした取り組みは大事だと思います。

原科会長

戸別収集だといいい加減に物を捨てられませんし、行動がきちっとしますね。日常的に情報が伝われば周辺のことを考えるようになります。情報のやり取りをしたことが周囲に分かると、この地域はこういう価値があって、こういうことを大事にしているということが分かるので、何か仕組みを上手く広めてもらいたいですね。

残り時間がわずかになりました。第2回の審議会はこういった内容になりますか。

坂本環境課長

住民の合意を得るためのコミュニケーション手段について町としてどういったことができるのか現在模索している状況です。開発だけではなく住民同士の小さなトラブルを防ぐようなものが何かないのか。また、環境面だけではなく、お店を開くとか、事業を行うとか、町内会でイベントを行う際、近隣の方に対し、何か事前にお知らせすることで、トラブルを防げるような手段は何かないのか。環境課で何かできないか考えていますが、委員の皆様のご意見をいただければと思います。本日はありがとうございました。

原科会長

これで第1回審議会を終わります。ありがとうございました。